

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	①生徒の実態やニーズに応じた教育課程の編成・改善に取り組む。 ②学習意欲の向上を目指し、組織的な授業改善に取り組む。	①小集団学習を行うための準備と研究を行う。 ②「主体的・対話的で深い学び」を目指した、組織的な授業改善に取り組み、表現コミュニケーション能力の育成を図る。	①30年度の小集団学習実施へ向けて、英語科、学習推進G、学務Gを中心に計画を進める。 ②各教科で「主体的・対話的で深い学び」について研究し、単元において一回は、発表の機会を設ける。	①小集団学習へ向けた準備が整ったか。 ②主体的・対話的で深く学ぶ授業が展開できたか。併せて単元において一回は、発表の機会を設けたか。
2 生徒指導・支援	①新羽生としての誇りと自覚が持てる生徒を育てる。 ②生徒がルール・マナーを守り、安全かつ安心して学べる学校づくりを進める。	①部活動や三大行事(体育祭・飛翔祭・ウインター・ライヴ)のさらなる充実をはかる。 ②・登下校における自転車と自動車の接触事故や自動二輪車乗車による事故をなくす。 ・生徒一人一人の規範意識の醸成を図る。	①・HP等を活用し、部活動の結果や発表等を積極的に広報することで活性化を図る。 ・行事ごとのテーマを決めたり、準備期間での本部とクラスの意見交換を積極的に行う。 ②・登下校時の学校周辺の危険箇所定期的に職員による立ち番指導を行う。交通安全教室の開催や地域との連携で小学生の安全登校指導を行う。 ・生徒理解に基づくきめ細かい指導を実施し、自ら規律を守る意識を持たせる。	・部活動が活性化し、部活動加入率が向上したか。 ・開催後の反省会やアンケートの検証をしながら、次年度への申し送り事項が十分に残すことができたか。 ②・交通安全といのちの大切さについて、生徒の指導・啓発活動が実施できたか。 ・問題行動に伴う特別指導件数が減少したか。
3 進路指導・支援	基礎的・汎用的能力の育成を通して確かな進路実現へつなげる。	・生徒自らが進んで進路の情報収集に取り組み、確かな進路実現へつなげるよう支援する。 ・上級学校訪問の内容を充実させる。	・進路ガイダンスの実施を通して、進路情報の提供を行うとともに、基礎的力診断テスト等の振り返り及び活用を通じて支援の補強に努める。 ・上級学校訪問へ向けての事前準備、事後指導等を充実させる。	・ガイダンス・情報提供等の支援が有効に実施されているか。4月時のGTZ(学習到達度)が夏休み明けに上昇しているか。 ・生徒の振り返りを通して進路に対する意識の変化を確認する。
4 地域等との協働	地域とのつながりを強めるとともに、学校行事等を通じて地域から信頼させる学校づくりを進める。	・生徒が校外活動しやすい環境をつくり、地域との交流を深める。 ・ホームページを充実し、開かれた学校づくりを進める。	・地元のイベントや小中学校の行事に参加させることによって、地域との親しい関係を向上させるとともに、アンケート等により、生徒の意識の変容をみる。 ・ホームページの内容を充実し更新回数を増やす。	生徒の地域に対する親しみが深まるとともに、地域の声を取り入れ、満足いく活動ができたか。 ・ホームページが充実し、更新回数が増えたか。
学校管理 学校運営	学校運営の効率化と事故不祥事防止に取り組む。	グループ間、学年間の連携を進め、学校運営の効率化をすすめる、併せて事故不祥事防止に取り組む。	・グループ横断的、学年横断的な教育課題について情報交換をさらに積極的にすすめる。 ・あらゆる場面で事故防止に関する相互啓発活動を実施する。	・グループ間、学年間での教育課題の共有し、課題の解決及び改善できたか。 ・事故不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できたか。